opusdei.org

年間第7週・月曜日 55より強い信仰を 嘆願する

年間第7週・月曜日 55 より強い信仰を嘆願する — 信仰は神の賜物 — 信仰を深めるにはよい心積もりが必要。 — 信仰と祈り。信仰を頼む。

2024/04/09

年間第7週・月曜日

55より強い信仰を嘆願する

一信仰は神の賜物。

- 一 信仰を深めるにはよい心積もりが 必要。
- 一 信仰と祈り。信仰を頼む。

55.1信仰は神の贈物

イエスは弟子たちが待っている所に 来られました。そこでも、病気の息 子を連れた父親、律法学者たち、多 くの群衆に出会いました。イエスを 見て、彼らは大喜びで迎えます。私 たちも祈りでイエスに、あるいはご 聖謐に近づきましょう。「群衆は 皆、イエスを見つけて非常に驚き、 駆け寄って来て挨拶をしましたし 1。皆が主の不在を寂しく思ってい たのです。少年の父親は、主をとり 囲んでいる群衆から出て言いまし た。「先生、息子をおそばに連れて 参りました。この子は霊に取りつか れて、ものが言えません。 (…) こ の霊を追い出してくださるようにお 弟子たちに申しましたが、できませ んでしたし。

主のみ名によって、すでにいくつか の奇跡を行った弟子たちは、男の子 を治そうとしましたがうまくいきま せんでした。イエスは後で密かに、 奇跡を行うために何が足りなかった のか説明しました。男の子の父親 は、十分な信仰を持っていませんで した。確かに癒しを求めたのですか ら幾分かの信仰は持っていました が、イエスが常に要求し、今も要求 しておられる限りない信頼、十全な 信仰は持っていませんでした。そし て、主はいつもされるようにその人 の心を動かし、一歩前進させられる のです。この嘆願者は謙遜に主のと ころへやってきたのですが、動機が 不確かで躊躇いながらだったので す。「おできになるなら、わたしど もを憐れんでお助けくださいし。イ エスはその父親の困惑を見抜き、助 けようとこう仰せになります。「信 じる者にはどんなことでも可能であ る | (マルコ9・23)。私たちが繰 り返し祈ることは何と素晴らしい信

仰の行いでしょう! イエスよ、信じます。私の信仰を強めてください。 行いによって信仰を推し進めることを、罪を嘆き悲しむことを、あなたの力と憐れみに信頼することを教えてください $_{-}^{2}$ 。

私たちの信仰が、使徒職を前にして、また困難に出逢って、ぐらついたときには、あるいは、友人、兄弟、姉妹、子どもたちの信仰がくじけたり弱まったりしたときには、福音書の父親を真似るべきです。ま

ず、この徳は贈物ですから、もっと 深い信仰を願いました。しかし信仰 を増すことは、同時に、私たち次第 でもあります。聖ヨハネ・クリゾス トモは次のように注解しています。 「目を開くことは神に相応しい仕事 です。しかし、注意深くあることは 人に相応しい働きです。つまり目を 開くとは神のわざであると同時に人 間のわざです」³。私たちはこの貧 しい父親の謙遜を真似るよう努力す べきです。彼は捧げるものがありま せん。だから、神の慈しみに頼りま した。「私たちを憐れみ助けてくだ さい」。これは祈るすべての者に とって、神の憐れみと同情に、この ように助けを求めるために取るべき 確かな道です。私たちの側で、謙 遜、霊魂の清らかさ、真理に対して 心を開けば、主は、恩恵を与えられ るのに妨げを置かない霊魂を決して 拒まれないので、この賜物を受ける ことができるでしょう。恩恵の種が 霊魂に根づかないのは、ただ、肥え

た土地を見出さなかったからです。 信仰を増しましょう。私たちは祈り の親しさのうちに願います。あなた への信仰がぐらつくことさえ許さな いでください。

55. 2 信じるために良い意向が必要

ガリラヤの町や村でイエスに会った 人々はイエスに何を見ましたか? 彼 らは自らの内的な心構えで見えるも のしか見ませんでした。彼らが、御 母の目をとおしてイエスを見ること ができていたらよいのですが。そう だったら、どれほど偉大なことに彼 らは直面したことになるでしょう! 法律の複雑さや微妙な差異にとらわ れた多くのファリサイ人のうちに、 彼らは何と取るに足りないもの、そ して狭い心を見たことでしょうか! 主の行われた奇跡を見ても、メシア がついに来られたと気づくことさえ できませんでした。多くのファリサ

イ人は世の光である主を前にしても 盲人のままだったのです。彼らの聖 書の知識は、メシアとその約束の訪 れについて預言されたすべての成就 を、イエスの中に見出すのに役立ち ませんでした。同時代の多くの人々 はイエスを信じることを拒みまし た。それは、彼らが正しい心を持っ ておらず、神を喜ばせたいという動 機に欠けており、神を愛しておら ず、また、行ったことに正しい意向 がなかったからです。主は言われま した。「わたしの教えは、自分の教 えではなく、わたしをお遣わしに なった方の教えである。この方の御 心を行おうとする者は、わたしの教 えが神から出たものか、わたしが勝 手に話しているのか、分かるはずで ある | ⁴。彼らは、なくてはならな い必要な心構えを持ち合わせていま せんでした。神の栄光を求めたので はなく、自分の栄光を求めていまし たから⁵。 奇跡でさえも彼らの内的 意向の必要性の欠如を補うことがで

きませんでした。長い間待たされ、はっきりと予告され、告げ知らされたメシアを拒む背後にある真の理由は、神を御父として所有していなかっただけでなく、さらに悪いことに、悪魔を御父として持っていたからです。仕事も感情も意向も良くなかったために $^6_-$ 。

神は霊魂の目を開いている人には見 えるようになさいました。すべての 人には目がありますが、ある人々の 目は暗闇の中にいるように見えず、 太陽の光を見ることができませんで した。しかし、太陽の光はこの人々 が単に見ることができないからと いって輝くのを止めません、むし ろ、この暗闇は、彼ら自身が見るこ とができないために起こるのです 7。もし、この秘跡が私たちを清 め、すでにこの地上におられる主を もっとはっきり見たいと思うなら、 誤りと罪を頻繁に告解することにど

れほど注意を払わなければならない でしょうか!

使徒職において、度々、多くの霊魂 が信仰を受け入れたり、召し出しを 認識したり、一貫したキリスト教的 生活を送るのに大きな障害になるも のは、個人的な罪を悔い改めたり、 愛情を無秩序に求めたり、神の恩恵 との一致が足りないことによっても たらされることに気づくべきです。 「偏見に影響され、情念や悪い意志 でかきたてられた人は、まさに目の 前に見られる明らかで外的な徴候を 否定することができるだけではな く、神が私たちの霊魂に注いでくだ さる、より崇高な霊感に抵抗した り、拒んだりすることができるので す_| ⁸。信じたいという望みがな く、万難を排して、すべてにおい て、神のみ旨を行う決心がなけれ ば、明らかなみ旨であっても受け入 れないことでしょう。このようにし て、自分の利己主義に閉じこもって

生きる人、自分の安楽と楽しみだけに生き、善を探し求めない人は、高貴な理想を信じ理解することが困難な時を過ごすことでしょう。また、すでに、神に自分を与える段階まできている人の場合、召し出しの特別な要求への抵抗が自分のうちに増すのがわかるでしょう。

このような時は、良く準備された、 罪を深く悔い改める誠実な告解は、 信仰の道を再発見するのに素晴らし い手段だと気がつきます。それは、 神が私たちに要求しておられること がわかるために必要な内的な透明さ を与えてくれます。人がこのように して心を清め、きれいにする時、信 仰と寛大さの種が霊魂に根づき、成 長して実を結ぶことができるように 十地を準備することになります。彼 らがゆるしの秘跡に近づくのを助け る時、霊魂に素晴らしい善を行うこ とになります。そして、霊魂を苦し める多くの問題と疑いが、良い告解

によって浄化されることはよく経験 します。霊魂が清ければ清いほど、 また意思の心構えが良ければよいほ ど、より一層はっきりと気付きま す。

55.3 信仰と祈り、もっと信仰を 持って祈る

私たちは、悪霊にとりつかれた男の子を癒せなかった失敗が弟子たちの心に重くのしかかったことが分からます。この心に残った出来事から戻った時、彼らは主に個人的に尋した。「私たちはなぜ悪霊を追い出すことができなかったのでした。「この種の悪魔は、祈りと断食以外の何物も追い出すことができない」。

私たちの歩む道を邪魔する頑固な障害を克服し、何とか自分で誘惑に打ち勝ち、キリストを見出すように多くの友だちを助けるのは、祈りに

よってのみできることです。聖ベダ は福音書のこの個所の解説をしてい ます。悪い悪霊を追い出すためには 何をすべきか、また使徒たちに教え るキリストは、私たち皆にいかに生 きるべきか、そして非常に大きな誘 惑にも打ち勝つにはいかに祈りが効 果的であるかを教えています。しか し、祈りとは神の憐れみを求めるだ けではなく、誠実な礼拝の内に信仰 に動かされて、神に捧げるものでも あります⁹。 私たちのすべての仕 事、すべての行いは主に対して行う 誓約であるべきですから、実りに満 ちたものであるはずです。

私たちはよい行いと、よくなされた 仕事、友だちを向上させたいと思う 点を自ら改善することによって、祈 りを強めるべきです。神のみ前でこ のようにするならば、信仰を増す道 を開くことにもなります。心と知性 を開く神との直接かつ個人的な親し い対話においてのみ、信仰の人は自 分の生き方とそれに関するすべての 事柄において、み旨の理解を深める ことができるのです」¹⁰。

主に、私たちの信仰を増してくださ

いと頻繁に願いましょう。使徒職に おいてなかなか実りが見られない時 にも、信仰を増してくださいと願い ましょう。あるいはこの欠点が克服 できないように思い始めた時、自分 自身の個人的な欠点、また、周りの 人々の欠点についても、もっと信仰 を深めてくださるように願いましょ う。神が私たちにお望みになるすべ てのことを行うのに悲惨なほど相応 しくないことが分かる時、信仰を深 めてくださるようにお願いましょ う。これらがすべて、「主よ、私た ちの信仰を増してください!| と大 声で叫ぶ理由です。このようにして 使徒たちは、キリストご自身を見聞 きしたにもかかわらず、確信が揺ら いだ時には祈ったのです。イエスは 決して援助することを拒みません。

過ぎ去った日々も、後に続く日々も 遍(あまね)く次のように言う必要を 感じます。主よ、自分の力に頼らせ ないようにしてください。一人では 何もできませんから! 私たちが耳を 傾ける良い父親の祈りは、大きな信 仰を願おうとイエスのところに行く ように元気づけてくれます。私たち も今、この黙想の時間の後、主に同 じ言葉を話すことができます。主 よ、信じます! あなたを信じるよう に育てられてきたのですから。あな たの近くであなたに従う決心をして います。一生の間、繰り返しあなた の憐れみを乞い願っています。ま た、何度も、あなたの子どもたちの 心にこれほどの素晴らしいことを行 うのは不可能だとも思っていまし た。主よ、信じます。しかし、さら にもっと十分に信じるように助けて ください!

神の御母、私たちの母、信仰の師で ある聖母にこれと同じ嘆願をしま しょう。「主が聖母に言われたこと は成就すると信じた聖母は幸いであ る」 11 。

³ 聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on the Acts of the Apostles, 3 5 参照

_ マルコ9:13-28

² 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 204

⁴ ヨハネ7:16-17

⁵ ヨハネ 5 : 4 1 - 4 4 参照

⁶ ヨハネ8:42-44参照

⁷ ピオXII, Encyclical, Humani generis, 1 2 August 1 9 5 0

 $[\]frac{8}{2}$ St Theophilus of Antioch, Book 1, 2, 7

⁹ St Bede, Commentary on St Mark's Gospel, in loc参照

¹⁰ 福者福者アルバロ・デル・ポル ティーリョ、On Priesthood

¹¹ 聖ホセマリア・エスクリバー, loc cit

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VII-getsu/ (2025/12/16)